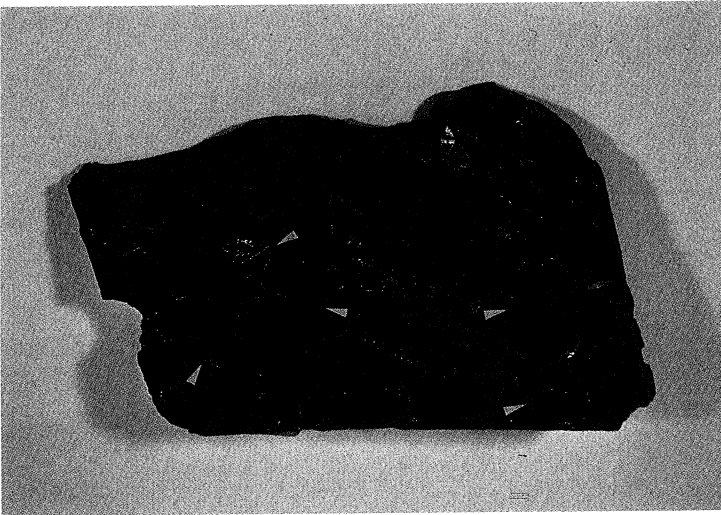


県立博物館企画展

「植物化石」展

・会期 七月十八日(土)～
九月十五日(火)
・会場 県立博物館

植物化石には、陸上植物の葉、種子、花粉、珪化木や、海に生息する海藻、植物性プランクトンなどがあり、地層中から発見されます。そ



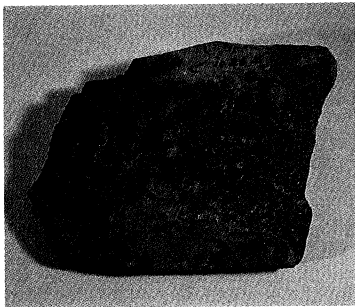
赤・ムカシハマナツメ、青・ハコヤナギ、黄・ナガバブナ
藤峠層 (中新世後期約600万年前・柳津町藤峠)

これらの化石は、時代を決定したり、気候の変動などを知る上で重要なものです。

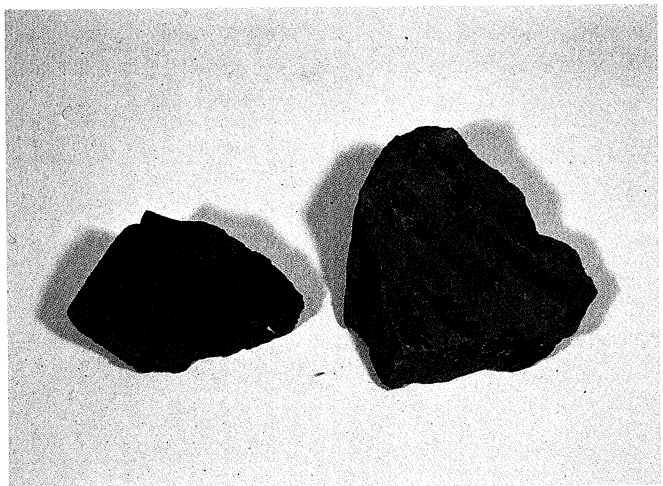
福島県からもたくさん化石が見つかっており、相馬地方には、今から一億五千万年前、暖かい気候のもとで育ったシダやソテツの化石、常磐炭田を形成したいわき地方の植物化石、氷河時代の寒い気候をあらわすモミ、カラマツなどの化石など、県内各地から産出しているのです。

特に今回の企画展では、植物化石の専門家である福島大学の鈴木敬治教授が長年にわたって収集された約二万点にもなる化石の一部が展示され、新生代以降(六千四百万年前～現在)までの本県を中心とした東北地方の植生の変化が、植物化石の歴史年表を通してわかります。私たちの生活に結びついている森林が、どのような歴史をもち現在にいたっているのでしょうか。

企画展では、植物の時代の変遷、化石からわかる気候の変動、生きている植物化石、炭田を形成した植物化石などをテーマとしてわかりやすく構成されていますので是非ご覧ください。



メタセコイア
滝夾炭層 (中新世前期
約1800万年前・いわき市遠野)



左(小) クサビシダ、右(大) ナギダマシ
栃窪層 (中生代ジュラ紀約1億5000万年前・原町市信田沢)

記念講演の
ご案内

「植物の化石について」

・講師 鈴木 敬治
(福島大学教授)
・期日 七月二十六日(日)
午後一時三十分より
・場所 博物館講堂

なお詳細については、県立博物館にお問い合わせ下さい。

(会津若松市城東町一―二五)
TEL 〇二四二―二八一六〇〇〇